Non-infectious uveitis risk after Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) vaccination: A nationwide retrospective cohort study.

Chang MS, Kim HR, Kim S, Lee CS, Byeon SH, Kim SS, Lee SW, Kim YJ.

Am J Ophthalmol. 2023 Sep 20:S0002-9394(23)00381-1.

新型コロナウイルス（COVID-19）ワクチンが開発されて以降、稀ではあるもののワクチン接種に関連するぶどう膜炎（VAU）の新規発症や再燃例の存在が知られるようになっています。ただしこれまでのところ大部分の VAU の報告では、ワクチン接種後 1～30 日以内といった接種後早期に発症したぶどう膜炎が対象となっています。一方で、新型コロナウイルスワクチン接種が長期的な経過観察期間において将来的なぶどう膜炎の発症と相関するかどうかについてはいまだ明らかな見解が得られていません。
そこで本研究は、韓国における疾病管理庁（Korea Disease Control and Prevention Agency）と国民健康保険サービス(the Korean National Health Insurance Service)のデータベースを用いた大規模コホート研究として、COVID-19 ワクチン接種後の非感染性ぶどう膜炎（NIU）の発生率とリスクの調査を目的に実査されました。接種群には初回ワクチン接種を受けた 5,185,153 人が対象とされ、ワクチン未接種の対照群には 2,680,164 人が対象とされました。
接種後 180 日間の観察期間において、NIU の累積発生率は接種群で 0.29%、対照群では 0.14%でした。また多変量解析の結果、60 日以内（早期）発症のハザード比[HR]は 1.27 で、61-180 日（遅発性）発症の HR は 1.39 と、接種群で non anterior NIU のリスクが上昇していることが示されました。またサブグループ解析では、女性において早期及び遅延性の non anterior NIU のリスクが増加していることが明らかになりました（HR 1.44 及び HR 1.78）。また NIU の既往歴があらゆるタイプの NIU 発症において最も重要なリスク要因として特定されました（HR 100～200）。
本研究の結果は大変興味深い内容ではありますが、一方、両群間で症例のマッチングはされていないため、接種群と対照群の間で多数の臨床的背景に有意差を認めています。多変量解析を用いた統計処理が行われていますが、重要なバイアスを排除しきれていない可能性が否定できません。新型コロナウイルスワクチン接種が将来のぶどう膜炎の発症と相関するかについての結論は、さらなる研究結果を待つ必要があるようです。

（担当者： 神戸大学　松宮　亘）